
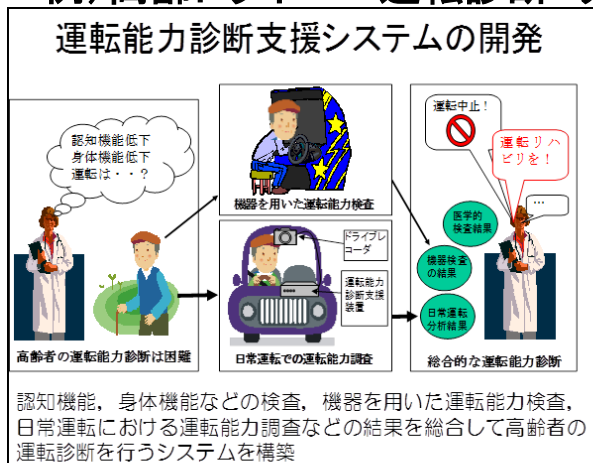


氏名・職名	伊藤 安海 教授	
キーワード	医療・福祉機器の開発、法科学(科学捜査、鑑定) 人体損傷評価、ISO等の安全基準策定 自治体・住民と連携した社会実験	
ホームページ	http://www.me.yamanashi.ac.jp/lab/ito/index.html	
所属学会	日本機械学会、日本法科学技術学会、自動車技術会、非破壊検査協会	
研究者から一言	<p>私は主に、医工連携による安全・安心な社会の実現に向け、要素技術の開発から機器開発、さらには社会システムの構築に至るまでの幅広い段階における研究を行ってきました。</p> <p>警察庁科学警察研究所で10年間、国立長寿医療研究センターで5年間、研究開発および社会実装に従事してまいりましたので、警察、医療の現場と連携した技術開発と比較的短期間での社会実装を目指した取り組みが中心です。</p> <p>安全・安心な社会の実現のために医療・福祉、科学捜査、自動車・交通といった分野での技術開発、製品開発にご興味があれば、お気軽にご相談ください。</p>	

【多分野連携による社会システムと要素技術の同時開発】

例) 高齢ドライバー運転診断・リハビリシステムの開発



- ・ 工学、医療など多分野の研究者と自治体が一体となったチームで社会実験(富士河口湖町高齢者ドライバー支援事業)を実施
- ・ 身体・認知機能と運転能力の関係やリハビリの有効性を明らかにしてきました
- ・ これまでの知見を製品化できるパートナーを募集しています

□企業と連携して行えること

・高齢者運転リハビリゲームの開発 (プロシステムは開発済み)

社会実験(富士河口湖町高齢者
ドライバー支援事業等)において
実証実験が可能
認知機能などの指標との関係性
を検証可能



・人体損傷評価用模擬生体軟組織の 開発(開発中)

(例)生活支援ロボットの安全性評
価用ダミーの疑似皮膚
ISO等での規格化を視野に入れ
て開発中
レオメータを用いて粘弾性を評価



・高齢者用体力測定機器の開発(プロシステムは開発済み)

(例)動的握力測定値による転倒リスク評価

・科学捜査機器の開発(既に全都道府県警察本部に導入実績有り)

適用できる製品・分野のイメージ

●科学捜査や事件・事故の鑑定用の機材

開発中のたな科学捜査技術(例えば高度な人体損傷評価)で必要となる資機材
の製品化(例えば、模擬生体材料 等)

●安全性評価用の機器

開発中の福祉ロボット等の安全基準で規格化される検査用機器(ダミー等)の
本体や素材の製品化

●新たな社会システムを実現するための機器

超高齢社会における安全・安心を実現するために、社会システムの開発と連動
した機器の開発(例えば、運転リハビリゲーム、生活見守り機器 等)

技術シーズについてのお問合せ、ご相談先
Email: renkei-as@yamanashi.ac.jp
Tel: 055-220-8759 Fax: 055-220-8757

